



役割を、つくる責任 水を、つかう責任

ジャージャーと台所の水が流れっぱなしになっていた。流しの前に立っているのは、いつも昼食後にお皿洗いを手伝ってくれるYさんだ。認知症を患うYさんにとって、昼食のお皿洗いは大切な役割。自分の食器はもちろん、他の利用者の食器も洗ってくれる。彼女は、ある種の使命感を抱いているのだ。ただのお皿洗いが？そんな大袈裟な！と思われるかもしれないが、彼女にとって、それがここ小規模多機能ホーム光の園おおくらに通う、目的のひとつであると私たちは認識している。

Yさんがお皿を洗っている最中に水を止めるべきか、葛藤している私たちがいた。しかし、水を止めても、きっとまた流す。そして、また止める。これを繰り返すと本来の目的である「お皿を洗う」こと自体が嫌になってしまう可能性が高い。だからグツと堪えるのだが、昨今の水道光熱費の高騰は、本当に頭が痛い。でも、この大切な役割を続けさせたい。それこそが、介護士が考える責任だと思う。

そんな時、介護用品の展示会で、JETという会社に出会った。水圧をあまり変えることなく節水につながる部品を展示していた。私たちは、すぐに交渉を行い、わずか数分で取り付けが完了するこの部品を事業所の数力所に導入した。

それから2カ月後。私たちが水道料金の明細を見たとき、これまで通りYさんにお皿洗いを続けてもらうことができると確信した。水道料金も削減できていた。我々のような小さな法人にとって、大がかりな環境整備は難しい。けれどJETという会社との出会いは、認知症の高齢者の暮らし、そして施設にとって、大きな価値を生むものにつながっているのだ。

これからも認知症の方との暮らしが、より豊かな時間になるように。

小規模多機能ホーム光の園おおくら
管理者 松岡 亮二

